



【造船技術実践実習】

《目的・ねらい》

[目的] 小型ブロックの模型製作を通して、実践的な技術・技能を身に付けるとともに、船舶の建造に関する高度な技術に触れることで、その雰囲気を感じ、技能向上への意欲を高める。

[ねらい] 船舶に関する実践的な技術・技能を身に付ける。



《実施内容》

◆ 小型ブロックの模型製作における測量技術に関する実習

○ 日時 平成30年 9月19日(水)・10月31日(水)
11月21日(水) 各5・6限目

○ 場所 今治工業高等学校 機械造船科実習棟

○ 対象 機械造船科(造船コース)3年生 各班5名程度

- 取組
- ・ オートレベルの使用方法について
 - ・ ブロックのねじれの確認・計算方法について
 - ・ トータルステーションの使用方法について



《講師》

永井 裕介 氏 今治造船株式会社今治工場 組立チーム

《講師の助言》

生徒はまじめに取り組んでおり、それぞれしっかり自分の考えを持って活動していた。また、中には鋭い質問をする生徒も見られた。今はレーザーで測定する時代だが、今回学んだ原理や考え方は、実際に現場に行っても生かすことができる。



《生徒の感想・学んだこと》

- ・ 見た目では分からないような小さな誤差を測定して調整するなど、細かい作業の繰り返しで大きな船が造られていることが分かりました。
- ・ 来年度から造船所で働く予定なので、細かいことに気を配り丁寧な仕事ができるよう努力していきたいと思います。



《SPH推進アドバイザー岡田さんの助言》

船体ブロック製作において、精度を上げるために欠かせない技能であり、3回目の実習ではブロック組立工法に沿って学ぶことができた。生徒はすぐに理解して、その技能を習得した。

